日本建築学会近畿支部木造部会主催フォーラム

「暮らし続ける住まい～『安心』な居場所づくりを考える」

私たちの住居に対する「安心」感は、住まいに安全で快適な居心地を感じることにより担保される感情であると思います。ひとたび、住居に不安・不快・不満を感じれば、そこは安心して暮らせる空間としての機能を失います。ずっと安心して暮らし続けるための住まいを考える上で、そこで暮らす住人の居場所がどのように維持されるべきなのでしょうか？

住居内での様々な事故により、住人が負傷したり、不安を感じたりする事例は多く発生しています。特に、高齢者が階段や廊下で転倒する事故は発生頻度も多く、住み慣れた家で、これからも生活していくことに不安を感じるきっかけになります。年齢を重ねるにつれて、これまではどうでもなかったことが、普通の生活にとっての重荷になることがあります。

このような住居内の問題に対し、実際の住宅建築設計の立場から具体的にどのように考えていく必要があるのでしょうか？　本シンポジウムでは、高齢者が安心して生活していくための住空間のクライテリアについて、建築素材論、建築計画論の立場から講師をお招きし、考えていく機会とさせていただきたいと思います。

日　時　2013 年 3 月 18 日（月）13:30～16:30
会　場　大阪市立大学文化交流センター・ホール（大阪駅前第 2 ビル 6 階）
講演者　三浦　研（大阪市立大学），工藤　瑠美（奈良女子大学）
　　詳細は近畿支部木造部会 HP をご覧下さい。
参加費　無料（資料代は別途）
申込み／問合せ　神戸大学大学院建築学専攻　向井
　　FAX(078)803-6683, E-mail: ymukai@port.kobe-u.ac.jp
内　容

開会　（木造部会幹事・向井洋一・神戸大学）

講演①　「高齢者の転倒事故を防ぐための床と手すりの選択方法」
　工藤　瑠美先生（奈良女子大学）

住居内での事故には様々なものがあるが、最も身近でかつ場合によっては死亡などの大きな被害につながるものの１つとして、床ですべって転倒してしまうといった事故が挙げられる。これらの事故防止策としては、すべらない床や動作を支援する手すりの設置などが考えらえることから、高齢者にとって適度なすべりを有する床の選択方法（すべりの測定・評価方法）、動作支援を考慮した手すりの選択方法（手の接触抵抗の測定・評価方法）について紹介する。

講演②　「高齢者施設の建物構造と転倒・転落骨折の発生」
　三浦　研先生（大阪市立大学）

高齢者施設では、転倒による寝たきりを防ぐために身体拘束を実施してしまうなど、人権にも絡む大きな課題である。これまで、見守り、低床ベッド、段差解消、ヒッププロテクターなどがその対策とされてきたが、完全に防ぐことは難しい。転倒しても骨折しにくい環境整備が必要と考え、ここ数年、建物の床の柔らかさと転倒・転落骨折の関係を調査している。床下地や建物構造の違いがどの程度、骨折の発生に影響するのか。また、木造の骨折低減効果について報告する。

ディスカッション
　コーディネータ：山本　直彦（奈良女子大学）

閉会　（木造部会主査・中治弘行・鳥取環境大学）